

前年同期比、売上高+221百万円の増収、営業利益+491百万円 経常利益+522百万円の増益。
東北地方太平洋沖地震による福島第一原子力発電所事故の影響により
大熊店(福島県双葉郡大熊町)資産を減損処理した結果、716百万円の当期純損失となる。

株式会社 **PLANT**

1. 業績概要

	前第2四半期 (百万円)	当第2四半期 (百万円)	前年同期比 (%)	前年同期比 (百万円)
売上高	40,757	40,978	+0.5	+221
売上総利益	8,137	8,421	+3.5	+284
売上総利益率	20.0%	20.6%	+0.6P	
営業利益	985	1,476	+49.8	+491
経常利益	925	1,447	+56.4	+522
当期純利益	533	▲ 716	-	▲ 1,249

2. 要因分析

(1) 売上高

12月より開始した創立30周年記念キャンペーンの効果が徐々に浸透し、客数・買上点数が前年を上回り売上増に繋がった。さらに、3月11日の地震発生により生活必需品の低価格で豊富な品揃えが全店において支持され売上高を押し上げた。

	売上高 (百万円)	前年同期比 (%)	客数 (%)	客単価 (%)	一人当たり買上点数 (%)	一品当たり商品単価 (%)
商品売上高	40,832	0.5	0.8	▲ 0.3	0.2	▲ 0.5
うちスーパーセンター	39,867	0.9	1.5	▲ 0.6	▲ 0.1	▲ 0.5

売上商品構成は、前年比フーズで0.3ポイント、エンジョイニーズで0.5ポイント増加した。

フーズでは青果が好調。エンジョイニーズは、新たに部門を追加したガソリンスタンドの売上により増加した。

	売上高合計	フーズ	ハウスキーピング	ホームニーズ	エンジョイニーズ	不動産賃貸料
前第2四半期	40,757	27,000	10,111	1,792	1,705	146
売上高構成比	100.0%	66.2%	24.8%	4.4%	4.2%	0.4%
当第2四半期	40,978	27,256	9,949	1,698	1,928	145
売上高構成比	100.0%	66.5%	24.3%	4.1%	4.7%	0.4%

(2) 売上総利益

店舗改装による定番商品の回転率のアップと創立30周年記念キャンペーンの展開および震災による生活必需品の需要増加により売上総利益率が0.6Pアップし、売上総利益額では前年同期比284百万円増加した。

(3) 営業利益

ローコストオペレーションによる低価格商品の提供を主眼に、人時生産性を意識した作業効率の改善により人件費は前年同期比115百万円の削減となった。また、店舗運営および管理コストの低減に取り組んだことから販売費が前年同期比25百万円、管理費は前年同期比65百万円の減少となり、売上総利益の改善と経費削減で営業利益は前年同期比491百万円増加した。

3. 業績予想

平成23年9月期通期業績予想数値との差異(平成22年9月21日~平成23年9月20日) (単位:百万円)

	平成22年9月 実績	平成23年9月 当初予想	平成23年9月 修正予想	修正額	震災・原発事故 の影響額	要因
売上高	83,461	83,500	82,000	▲ 1,500	▲ 1,500	大熊店営業停止による売上減少
前期比		100.0%	98.2%			
営業利益	2,109	2,200	2,600	400	▲ 122	第2四半期増益分 大熊店の維持経費
前期比		104.3%	123.3%			
経常利益	2,003	2,050	2,500	450	▲ 132	第2四半期増益分 大熊店の維持経費
前期比		102.3%	124.8%			
当期純利益	1,081	600	▲ 200	▲ 800	▲ 800	災害特別損失 ▲ 1,813
前期比		55.5%	-			

売上高は、震災後、生活必需品の需要は堅調に推移しておりますが原発事故により大熊店の売上は見込めないことから前回予想を下回る見込みです。営業利益・経常利益では売上高の減少見込みによる売上総利益額の低下および震災の影響による経費増加要因はあるものの第2四半期累計期間同様ローコストオペレーションにより収益改善が図られることから前回予想を上回る見込みです。しかしながら、第2四半期累計期間において計上いたしました特別損失により当期純損失となる見込みであることから通期業績予想を修正いたしました。

なお、平成23年9月期の1株当たりの配当は、年15円を継続する方針であります。

以上

